

首里城公園展示解説キャラクターについて

上江洲安亨*1

1. キャラクター製作の目的

当財団では、首里城公園を訪れる幅広い来園者の方に、わかりやすく首里城及び琉球王国の歴史文化を解説するため、当財団所蔵の絵画資料等をもとに展示解説キャラクターを製作した。製作したキャラクターは現存する琉球関係の最古の絵画である自了筆の『白澤之図』と、首里王府再末期の絵師、査丕烈筆の『月下神猫図』から白澤と神猫をキャラクター化した。その白澤や神猫と一緒に琉球の歴史や文化を学んでいく元服直後の里之子という設定で、安良城（あらぐすく）里之子、板良敷（いたらしき）里之子、小緑（おろく）里之子と名づけた。里之子の姓は、首里系士族のなかで特徴的な姓とした。このキャラクターは、平成 21 年度に製作を行い、平成 22 年度の企画展「うるしの王国」から展示解説キャラクターとして運用した。



白澤之図

作者：自了（城間清豊（1614～1644））

製作：17 世紀前半

自了は、耳と口が不自由だったといわれている。

沖縄県指定文化財



ハクタクおじい

白澤は、中国で、有徳の王が治世する時代に、現れるという伝説の聖獣。

琉球王国の居心地がよく、数百年居座り続けている。そのため、なんでも知っている物知りで、里之子キャラクターたちに展示品の様々なことを教えるという設定としている。

*1 (財)海洋博覧会記念公園管理財団 首里城公園管理センター 事業課 調査展示係 係長



月下神猫図

作者：查丕烈（仲宗根眞補 1843～？）

製作：明治32（1899）年

神猫は、18世紀に活躍した呉師虔や殷元良も描いていた。王府再末期の絵師である查丕烈も前代の二人の絵師と全く同じ構図で神猫を描いている。



カミマヤア～

琉球王国に数百年、居座り続けている神猫で、代々、琉球王国の絵師に図らずも目撃されて、その姿を描かれているという設定で、恥ずかしがり屋のくせに世話好きで、琉球の歴史のことになると誰にでも教えたがり、里之子キャラクターたちにも、展示品の様々なことを教えるキャラクターである。

里之子キャラクター



お ろ く さ と ぬ し
小禄里之子

代々、三司官(国務大臣)を輩出している名家の子。良家のおぼっちゃんらしく、朗らかで明るい性格。いつも他のキャラクターに、琉球の歴史のことを教えてもらっている。



あ ら ぐ さ と ぬ し
安良城里之子

琉球王国の歴史に詳しい首里士族の少年。曲がったことが嫌いで正義感が強い。少しでも琉球王国の歴史で疑問に思ったことは、とことん調べるがんばり屋さん。



い た ら し き さ と ぬ し
板良敷里之子

身分の低い士族の家に生まれたが、頭脳明晰かつ努力家な少年。英会話も堪能である。少しきどっていて冷たい感じがするが、本当は面倒見のよい優しい性格。

